

棚田を再生してブドウ畑に

大阪北部初のワイナリー

豊能町 とよの高山ワイナリー



再生した棚田で苗木を密植する垣根式栽培に取り組む山上さん

【大阪】「棚田の保全を通じて新たな特産品を生み出す挑戦が、農業への関心が高まる契機になれば」と話すのは、豊能町で遊休化した棚田を再生してワイン醸造用ブドウの栽培に取り組む「とよの高山ワイナリー」代表取締役の山上忠彦さん(59)だ。

現在は、約1畝の棚田でデラウェア、ヤマ・ソーヴィニヨンなど7品種のブドウのほか、ヤーコ

果樹の就農学校」などに参加して、24年に新規就農した。

現在は「めぐり農園」の屋号で、同市北区で約50畝の畑を借りてレモンなどの果樹や野菜を栽培。また、消防団の集会所だった場所を借りて、月に2回、マルシェも開催して自分が栽培した野菜や、仲間が農産物や飲食物、雑貨などを販売している。

受け、2020年に認定新規就農者として独立した山上さん。翌年から本格的に棚田の再生とブドウ栽培に着手したが、借りた農地は石垣から木々が突き出るほど荒廃しており、獣害被害も深刻だったという。

重機の導入と徹底した獣害対策の必要性を痛感し、資金確保のためクラウドファンディングを実施。他の地権者の農地も含め棚田全体を囲う防護柵を設置後、石垣の再構築や重機での除根を行った。23年に再生が完了した。

一連のプロジェクトでは町からの後押しもあり、町全域が「豊能町ワイナリー特区」の認定を受けたことで小規模でも果実酒

の製造が可能となった。3月20日には、同ワイナリー初のワインとなる

25年のビンテージをリリースする予定だ。(林佑一郎)

【京都】城陽市の倉田侑樹さん(35)は、飲食業からUターン就農して5年目。ハウスでトマト20畝とイチジク(ハウス80畝、露地40畝)などを栽培し、年間を通じて市場やスーパー・直売所に出荷している。

植物性完熟たい肥による土づくりを力を入れ、延長、イチジクではハウス栽培の拡大など、経営安



もうすぐ収穫するトマトを紹介する倉田さん

植物性完熟たい肥で栽培

「将来は飲食店を開業したい」

トマトでは炭酸ガス濃度管理や加温による作期の延長、イチジクではハウス栽培の拡大など、経営安定に向け生産技術の向上に全力で取り組んでいる。

「将来の夢は、自分で生産した野菜を使った飲食店の開業です」と笑顔で語った。(澤崎肇)

「人とのつながりを大切に」

神戸市 小栗広恵さん



レモンのハウスで小栗さん

看護師からレモン農家へ転身

【兵庫】神戸市北区の小栗広恵さん(50)は、就農セミナーへの参加を通じて、看護師から農家へ転身した。コロナ禍の過酷な業務の中で、たまたまテレビでレモン農家を紹介する番組を見て「私は農業をしたい」と強く感じたという。

以来、農業の情報を調べ、2021年には、ひょうご農林機構などが主催する就農セミナーに参加し、神戸市の出展ブースで知った市の農業研修を受講。22年に家族と相談して看護師を辞め、本格的な研修制度「こうべ

果樹の就農学校」などに参加して、24年に新規就農した。

現在は「めぐり農園」の屋号で、同市北区で約50畝の畑を借りてレモンなどの果樹や野菜を栽培。また、消防団の集会所だった場所を借りて、月に2回、マルシェも開催して自分が栽培した野菜や、仲間が農産物や飲食物、雑貨などを販売している。

【奈良】県では、3月1日までに「ならジビエ料理フェア」を開催。県内で捕獲し、適切に処理した猪・鹿の肉をブランド「ならジビエ」として推進し、地産地消をPRしている。

「おいしいならジビエ」の鹿肉を使ったローストや、脂が甘くてしつかり

「農業のしごと魅力発見セミナー」では、就農までの道のりや農業を仕事にする魅力などの体験談を聞くことができる。主催者は「実際に農業を仕事にして

奈良県内飲食店でプレゼント企画も



ならジビエ料理フェアのPRチラシ

「鹿肉を使ったローストや、脂が甘くてしつかり

青年 奮闘中 委員

▷39

那智勝浦町 原洋平さん

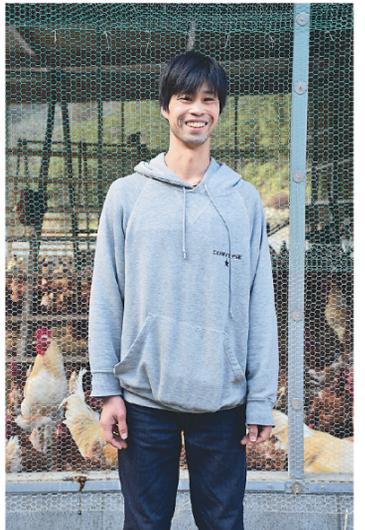
【和歌山】「まずは農地の利用状況をしっかり把握し、地図に落とし込んでいきたい」と意気込んでいるのは、那智勝浦町で農地利用最適化推進委員を務める原洋平さん(37)。

原さんは同町色川地域出身の認定農業者。現在

は約1千羽の養鶏(採卵)や肉用牛の繁殖、色川茶1・2号などを経営している。

地域の農業を支えるためには農地の利用情報の把握が重要と感じていたところ、長年農業委員を務めていた父親が退任するタイミングだったこともあり、昨年9月に推進委員に就任した。

色川地域振興推進委員会の委員も務めている原さんは「色川は移住者も多く、暮らしや環境、土地の使われ方など、地域



色川地域の一住民として、地域に根ざした活動を続けている原さん

全体の将来への関心が高い地域だが、遊休農地は増加傾向にある。自分の活動を通じて、農地の情報を分かりやすく共有できる仕組みづくりにつなげていきたい」と語った。(田村健伍)

農地利用状況の把握に意欲

「情報共有できる仕組み作りたい」

近畿

近畿総局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入
丁子風呂町104-2 府庁西別館内
075-441-3660

滋賀県支局 077-523-2439

大阪府支局 06-6941-2701

兵庫県支局 078-391-1221

奈良県支局 074-222-1101

和歌山県支局 073-432-6114

セミナーから個別相談まで

滋賀県で15日に農林水産業就業相談フェア



しがの農林水産業で働く! 就業相談フェア 2026年2月15日(日)

滋賀県農業教育情報センター(2階 第3研修室 他)

【滋賀】(公財)滋賀県農林漁業担い手育成基金は2月15日、大津市の滋賀県農業教育情報センターで、県内で農林水産業で働くことに関心がある人を対象とした就業相談フェアを開催する。

フェアでは、農林水産業の仕事を紹介するとともに、就業希望者と農業法人などのマッチングを行い、農業法人などに人など約15社から個別ブースで話を聞いたり、質問したりすることができ

また、県内の農業法人で働く青年農業者による

「農業のしごと魅力発見セミナー」では、就農までの道のりや農業を仕事にする魅力などの体験談を聞くことができる。主催者は「実際に農業を仕事にして